



# 最北の木下りんご園

1本に4種のりんごが実る  
日本最北のりんご園

初山別村豊岬市街から約8km進んだ山あいの明里地区にある「木下りんご園」は、日本最北のりんご園。りんごをはじめ、ナシとプルーンを育てているのは初代木下善平さんから数えて3代目にあたる木下喜代次さん、幸代子夫妻。開拓民として明治37年(1904年)頃に入植した善平さんが、荒れた農地の開拓に苦慮していたところ、ある僧侶に「石ころの土地はりんごが生る」と教えられたことが、りんご農家となるきっかけとなりました。一時は周辺で10戸ほどがりんごを作っていました。収入のいい水田に切り替える農家が相次ぎ、明里地区でりんご農家は木下家だけになってしまいました。2代目の二三次さんは当時、1ヘクタールだったりんご畑を2倍に広げ、水耕栽培と合わせて営農していましたが、昭和61年(1986年)に3代目へと引き継がれています。

りんごはレッドゴールド、ふじ、つがる、スターキングなど10種類を栽培し、接ぎ木によって、1本に4種類の実が生る珍しいりんごの木や1本に2種類の実が生るナシの木もあり、たわわに実ったりんごを求め、りんご狩りに訪れる人も少なくありません。ナシは長十郎、千両、日面紅(ひめんこう)など、プルーンはスタンレー、シュガーなどの品種で、プルーンはジャムに加工するのもお勧めです。

一時は1,000本を超えるりんごの木があった木下りんご園も、木の老化や虫食いによる除伐、台風による倒木などの被害を受け、今では100本ほどに減ってしまいましたが、中には樹齢80年を数える木も毎年、赤い実を付けています。

## 見どころ

木下りんご園の営業期間は例年7月～10月。りんごやナシ狩りは9月中旬から始まり、北限のりんごは甘く、ジュシーで、直売や地方発送も行っています。

## ポイント

平成22年(2010年)に開設100周年を迎えた木下りんご園は明治43年(1910年)に初代、木下善平さんがりんごを植え、代々、接ぎ木をしながら大切にりんごの木を守っています。1本に数種類のりんごがなるのは先祖代々の思いが実を結ぶからにはほかありません。

## 五感で感じる！風土資産の魅力



**味** 木下りんご園ではりんごの他にも、季節によってさくらんぼ、なし、プルーンなども味わうことができます。

**嗅** 5～6月のりんごの花が咲く時期には、農園内の木々にも可愛らしく花が咲き、爽やかで甘酸っぱい香りを嗅ぐことができるかも知れません。

**知** 木下りんご園は北海道で推進している「ふれあいファーム」制度に登録しています。農作業体験や農業者の方々との語らいを通して、日頃接する機会の少ない農場の実際に触れ、農村の魅力を感じてもらうための交流拠点としての役割を果たすべく、農業・農村についてのPRや啓発活動に取り組んでいます。



## ■ 基本情報 (R1. 5)

住 所：苫前郡初山別村字明里  
TEL/FAX：0164-67-2542